

ぬまたっ子

～ 『自立』 『共生』 『蛭雪』 ～

沼田学園？小中一貫校？

沼田学園 副学園長 中川 浩之

「小中一貫て何？」「必要なの？どこが違うの？」ということを知ることがあります。また、思っている声に出して言えない人もいるかもしれません。コロナ禍で社会全体が振り回されている中、子供たちの学びを保障し前に進まなければいけません。現状を見ると少子化により、学校の統廃合が進んでいます。中空知では、今年度で閉校する学校が3校あります。北空知は、1市5町。5町は、すべて小学校と中学校が各1校。義務教育学校（他の町では義務教育学校設置に向けての計画があるそうです）こそないものの、小中一貫校が沼田学園を含めて2校あります。今まで以上に義務教育の目的が明確になってきています。小学校と中学校の義務教育9年間を小学校の先生は、中学校卒業をイメージして教育活動を行う。中学校の先生は、小学校のどこで何を学んで今の姿があるのか、時には躓きはどこにあるのか。ということを考える重要性が増してきています。このような中、2016年「小中一貫型小学校・中学校」が制度化されました。

校訓

じりっ
「自立」

きょうせい
「共生」

けいせつ
「蛭雪」

学園教育目標

【知】かしこく知性を高める

【徳】なかよく情操豊かに

【体】心身たくましく

研究主題

「自ら進んで考え、
学び合う児童・生徒の育成」
～沼田スタイルを活かした授業づくり～

平成30年度に沼田学園が開園しました。道教委の指定を受けている小中一貫校です。学校は良く地域の核と言われます。地域に学校がなくなると子育て世代も地域を離れてしまいます。沼田町ホームページでは、「子育て満足度日本一の町」とあり、幼小中の一貫連携した学園の魅力が記載されています。地域と強い結びつきを大切に、魅力ある学校づくりを目指していきます。地域創生として学校は貴重な存在です。さらに新学習指導要領（全国どこでも同じ水準で教育活動が行われるための教育課程の基準）では、幼少、小中、中高といった学校間の接続を重視しています。まさに、国が、そしてこの沼田町が目指しているものが大切になっています。地域で学ぶことを通して、ローカルだけでなくグローバルな課題にも対応できる能力を育成し、将来どんなところでも活躍できる子供たちを育てなければいけません。それにこたえられる教育活動が求められています。沼田学園の課題もまだまだたくさんあります。一つずつ解決・改善し、子供たちに必要な資質能力を身に付けさせる土壌を作っていく必要があります。

最後に、『沼田っ子でよかった』と言ってもらえる教育を推進していきます。地域、保護者の皆様には、ご理解とご協力をお願いするとともに、何かあれば遠慮なく思いを声にして学園に伝えてください。よろしくお願いいたします。

今年度の一貫連携教育の取組状況・・・

今年度で小中一貫校「沼田学園」は4年目を迎え、コロナ禍で保護者の人数制限や地域の方の参観の中止等がありましたが、学園運動会などの行事も無事、終了する事ができました。また、一貫連携の取組として、



現在までに小学6年生による中学校登校を4回、中学校の教員が小学校に来て行う乗入授業も音楽・外国語・算数を中心に毎週、実施しています。さらに、今年度も公開研究会という形では実施できませんでしたが、10月28日に中学校で11月5日に小学校でそれぞれ研究授業を行い、お互いの教職員及び教育委員会の方々の参観の中、研修を進めることができました。



小学校の学習発表会や中学校の文化祭では、参観する保護者の人数制限を行い、地域の方の参加を遠慮した中での実施となりました。また小学校の地域参観日も昨年同様、中止という形になりました。その中でも、今年度も中止となった「夜高あんどん祭り」ですが、唄・踊りの発表を小中学生が小学校グラウンド



前で披露し、こども園の幼児も含めた多くの方が参観する中で、お互いの唄・踊りを見学できたことは、小中一貫の大きな成果につながりました。コロナが収束して、地域の方に学園の様子を見てもらえるようになることを願っています。

保護者アンケートから・・・

沼田学園として、小中学校共通した項目で保護者アンケートを実施しています。集計結果から次のような特徴がありました。

◎全体的な傾向として、否定的な意見は皆無の常態でした。下記に挙げた3つの低い項目（読書、家庭学習、学力に関わる設問）以外は、約9割の保護者が「とてもそう思う」「少しそう思う」と回答していました。

【評価の高かった項目】

○学校はPTA活動や地域行事に協力的である。

⇒ 沼田町では「夜高あんどん」という地域に根ざした大きな行事があることが、影響しています。

○学校はわかりやすい授業を行っている。

○子どもは学校行事や児童会・生徒会活動に積極的に参加している。

⇒ コロナ禍ではありますが、すべての学校行事を無事、行うことができました。

○子どもや学校のことについて相談しやすい。

【評価の低かった項目】

△子どもは読書に親しんでいる。

⇒他の地域でも同じ傾向が見られます。

△子どもは家庭学習を各学年で決められた時間よりも多く取り組んでいる。

△子どもは各教科の基礎的、基本的な学力を身に付けている。

【一貫連携教育について】・・・「学校は小中一貫連携教育等の特色ある学校づくりに力を入れている」に対する回答

⇒ 「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせて、全体の96.8%の保護者から肯定的な意見をいただきました。

この結果を沼田学園の教職員全体で共有し、子どもの長所を伸ばし、短所を克服できるよう努めてまいります。特に、評価の低かった学力の部分については、一貫連携の特色を生かして全力で取り組んでいきます。